

情勢報告

安芸・芸西地域集落営農塾（組織化）を開催しました



集落営農塾の様子

6月23日、安芸総合庁舎で「安芸・芸西地域集落営農塾（組織化）」を開催し16人の参加がありました。農業改良普及課は、集落営農の必要性や種類、設立までの流れ等を説明し、安芸市役所からは市農業の現状と今後について提案がありました。

また、第2部では、3班に分かれてワークショップ形式で農地や機械、担い手の状況や今後の取組について話し合いました。「今後、農地の維持管理は難しい」「施設園芸地帯でも水稻の受託は進めていきたい」等の意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も、集落営農先進事例研修や座学を通じて集落営農の啓発を行っていきます。

第1回集落営農塾（ステップアップ）の先進事例研修を開催！



熱心に説明を聴く参加者

7月7日に、先進事例研修を開催し、香川県の集落営農法人の（農）あまざりと（農）ほのやまの2組織を訪問しました。

研修には管内の集落営農組織組合員9人と関係機関6人が参加し、組織を長続きさせるための機械の管理方法や所得向上の方法などを学びました。

研修参加者からは、「オペレーター確保のために地域内の企業と連携する方法があることを知った」「法人化については今後検討していきたい」等の声が出ました。

農業改良普及課は、今後も各地域で集落営農のステップアップに向けて話し合いが進んでいくよう、関係機関と連携して支援していきます。

農業について学ぼう！～農業基礎研修講座がスタート～



熱心に講義を聴く参加者

7月13日、安芸総合庁舎で第1回農業基礎研修講座を開催し、19人の新規就農者や研修生等が参加しました。

本講座は、新規就農者等の栽培・経営技術の向上、安定化を図ることを目的に開催しています。第1回目は農薬の使用について講義しました。参加者からは「農薬を溶かす順番や薬剤抵抗性について勉強になった」、「使用上の注意点がわかった」との声がありました。

農業改良普及課は、全8回の講座を開催し、新規就農者等への支援を行っていきます。

情勢報告

高品質の酒米生産を目指して ― J A 土佐あき特産部東川酒米研究会が穂肥検討会の開催 ―



幼穂を確認中

7月20日、安芸市東川地区で東川酒米研究会が穂肥検討会を開催しました。当日は、酒米生産に取り組む11人が参加し、全員のは場を巡回しました。農業改良普及課は、J A と各は場で幼穂の大きさを確認し、事前に実施した生育調査結果から導き出した穂肥を2回行うプランを提案しました。そして、全員で検討した結果、プランに沿って、出穂18日前と10日前を目安に各自穂肥を行うこととなりました。

今作は葉いもちの発生が多く、J A から防除薬剤の提示も行われ、生産者の病害虫防除に対する関心が高くなっています。農業改良普及課は、J A と協力して病害虫の発生状況を調査しながら、適期防除を指導し、高品質の酒米に仕上がるよう支援していきます。

ナス平畝栽培での根張りは？地上部だけでなく地下部も注目！現地で穴掘り実施



暑いハウスの中で、地下部を慎重に掘りあげる農業改良普及課の若手職員ら

6月21日、今作から初めて平畝栽培に取り組んだ安芸市内のナスほ場で、農業改良普及課の職員4人が地下部の掘取り・土壌断面調査を行いました。作土の深さや硬さ、根張りの状況を観察し、深さ10cm程度のところで地表面と平行に根を伸ばしていることを確認しました。

立ち会った園主からは「生育・収量は前作(畝立て)と同等以上で、畝立て作業が省力出来るので来年も続けたい」という声がありました。

農業改良普及課は今後、地上部だけでなく地下部にも注目した生育調査を適宜行い、それらを生産者にわかりやすく「見える化」する素材データを集積していきます。

穴内集出荷場研究会青年部会が反省会を開催



根の違いを見比べる生産者

6月22日、穴内集出荷場研究会青年部会がJ A 土佐あき穴内集出荷場で反省会を開催し、生産者10人が参加しました。

農業改良普及課はファインバブル実証ほの成績について説明し、掘り上げたナスの根を実際に見てもらいました。ファインバブルを導入している生産者数名から、「肥料の切れが早いように感じたので施肥量を増やした」「樹の生育が導入前より良くなった」といった発言もあり、生産者同士の活発な情報交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も生産者同士が学び教えあう場となるように部会活動を支援していきます。

情勢報告

～今作の振り返りと次作に向けて～安芸集出荷場総合部会(反省会)を開催



農業担い手育成センターによる
ナス増収事例に聞き入る生産者

6月30日に安芸集出荷場で同場園芸研究会総合部会が反省会を開催し、ナス類、ピーマン類等生産者44人が出席しました。品目別分科会では今作の反省をし、全体会では農業担い手育成センターから最新の実証結果や資材業者から各種土づくり資材の活用法を学びました。

農業改良普及課は、ナス分科会で、今作5～6月の被害が問題となった黒枯病の生態と防除法を紹介しました。

生産者からは「次作の黒枯病低減に向け、環境測定器で湿度を見ながら換気の工夫をしたい」といった声が出ました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や勉強会での技術情報の提供等を通じ、研究会の活動を支援します。

さらば黒枯病！ 芸西園芸研究会が講演会を開催



病害対策について説明する
農業技術センター研究員

7月6日にJA土佐あき芸西支所で芸西園芸研究会が病害対策の講演会を開催し、生産者35人が参加しました。

農業改良普及課からは定植初期の栽培管理やイオウ粉剤を利用したナスの病害対策、8月に行う環境制御技術勉強会の情報提供を行いました。また、農業技術センターからは農薬や除湿による病害対策について説明がありました。生産者からは「青枯病対策はどうしたらいいか」「太陽熱消毒をしても黒枯病菌はほ場内に残るのか」など熱心に質問がありました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や勉強会で技術情報の提供等を行い、研究会の活動を支援します。

時期に合った栽培管理で品質、収量の向上を！中芸地区オクラ現地検討会を開催



これからの栽培管理について
説明する普及指導員

6月22～24日の3日間に、中芸地区5ヵ所で中芸集出荷場オクラ部会が現地検討会を開催し、延べ25人の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは梅雨期及び梅雨明け後の管理、梅雨期に多い“イボ果”の発生要因と対策についての情報提供を行いました。生産者からは「施肥と“イボ果”発生の関係」「これからの時期の効率的な施肥方法」「樹勢と摘葉管理」などについて熱心に質問がありました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や勉強会での技術情報の提供等を通じ、部会活動を支援します。